令和６年３月７日

令和５年度 氷見市教育総合センターだより 第６報

第２回 教育総合センター運営委員会　　１月 23 日(火)

本年度も皆様方のご理解とご協力の下、教育総合センターの事業を実施してまいりました。ご支援いただき、ありがとうございました。第２回教育総合センター運営委員会でいただきましたご意見の一部を紹介します。

○研修について

・学力向上研修会で算数科について笠井先生から学んだこと（指導案の書き方、つまずく子供への手立て等）を、その後の学校訪問研修会や校内研修の実践に生かすことができた。

・「令和のとやま型教育推進事業」に取り組み、とてもありがたい機会をいただいたと感じている。研究協力校として、他校の先生との交流や意見交換もでき、よい経験となった。

・ＷＥＢＱＵの研修会は、校内研修会として全職員で聞くことができ、とても貴重であった。個人の教育相談や学級経営の見直し、懇談会に活用することができた。今後、活用方法を探りたい。

・Ｃ４ｔｈを通じて、研修会の資料を送付していただき、参加できない先生方にも広めることができてありがたかった。可能であれば、動画等の提供をしていただけると、学びたいという声にも応えられると思う。

○ＩＣＴ教育の推進に向けて

・ＩＣＴ教育推進委員の授業を参観させてもらったが、推進委員が学んだことを推進委員以外の教員にも共有できる場があれば、勉強になるのではないかと思う。

・今年の震災をはじめ、不登校等でリモート授業をすることが増えたが、教員が急なことに対応できないこともあった。１人１台端末活用研修会等で、リモート授業をする教員への支援が必要であると思った。

○その他

・教育論文・教育実践記録の応募は、参加しやすく、負担にならないページ数にしてはどうか。

・以前実施されていたが、氷見市として力を入れて教職員に周知するような悉皆の研修会を実施してはどうか。

第２回　ＩＣＴ教育推進プロジェクト会議　　２月 27 日(火)

指導助言：富山大学大学院教職実践開発研究科　教授　長谷川 春生　先生

会議では、センターからＩＣＴ活用推進に向けた研修会等の取組について、市の担当者からＩＣＴ環境整備等について説明しました。その後のグループ協議では、各校のＩＣＴ教育推進委員が今年度の成果と課題、次年度に向けての提案等の意見交換を行いました。全体協議では、成果として、ＩＣＴを授業で活用する先生や校務でも Microsoft Teams、Forms の活用が増えたこと、職員会議等でペーパーレスが進んでいること等の意見が出ました。また、課題としては、タブレット PC の不具合が多いことや、書く力とキーボードを打つ力をバランスよく指導していくことの必要性等の意見が出ました。

教育ソフト関連企業の方々からも、次年度に向けての提案等をいただきました。ＩＣＴ教育推進委員長からは、「各学校でＩＣＴ教育推進委員が中心となって、今後も活動を進める上で、統一したルールづくりが必要になってくると感じた。皆さんの協力で、ＩＣＴ教育を一歩ずつ前進させていきたいと思う」というお言葉をいただきました。

長谷川先生からは、ＩＣＴの活用事例を教えていただき、今後のＩＣＴ活用推進に向けて、特に以下の点について教えていただきました。

○今後、ICTを日常的に使って、効果的な活用の段階を経て、タブレットPCが文房具のように扱われるようになっていくと思う。

○端末の持ち帰りが当然となってきているが、課題も多い。持ち帰らせてどう使うのか。保護者の理解も必要になってくる。単純なドリルだけでは、子供の興味が続かない可能性もある。

○今後、テストもコンピュータ上で受けなければいけないものも出てくる。そこで、自分の力を100%出さなければいけないし、しっかりと文章も書けなければならない。そこのバランスを、限られた時間内でどう配分しながら教育活動を進めていくかが難しい。今後の課題である。

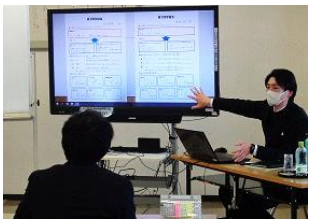
本年度の成果や課題を生かし、今後もＩＣＴの効果的な活用に向けた取組を進めたいと考えています。

若手教員研修会「学級づくり・授業づくり」　12月26日(火)

小学校･義務教育学校(前期)の部：講師　氷見市立西の杜学園　屋　敷　香奈子　教諭
氷見市立上庄小学校　坂　田　和　彦　校長
中学校･義務教育学校(後期)の部：講師　氷見市立北部中学校　三　﨑　篤　志　教諭

小学校･義務教育学校(前期)の部では、講師の模擬授業を通して、その時間にしかできない「生」の授業、「分かる、楽しい」授業等について考えたり、自らの授業を振り返り、漢字一文字で表したりしました。中学校･義務教育学校(後期)の部では、学級づくりに対する講師の具体的な指導・支援を聞く中で、段階を踏んだ学級経営(教師主導→教師協働→生徒主体）の教育的効果、生徒に「なぜ？」と問いかけ、目標が達成できない理由を考えさせる場の大切さ等、実践に生かすことができるノウハウをたくさん学ぶことができました。

＜参加者の声＞
- 屋敷先生の子供中心の「子供が生きる授業」や坂田校長先生の教材研究が光る「わくわくする授業」は、参加していて楽しく、こんな授業がしたいという気持ちになった。
- この研修で学んだことを、子供の意見を広げていく場と子供が楽しいと思える授業づくりに生かしていきたい。
- 「こうなってほしい」という生徒像をイメージし、見通しをもって手立てを考える必要があると思った。また、それを実現させるためには、信頼関係の構築が前提であると改めて実感した。



第２回　幼･保･小接続研修会　2月15日(木)　氷見市子ども発達サポートセンターくるむ

氷見市子育て支援課と合同で開催しています。今回は、以下の内容について理解を深めました。

〇ミニ研修「姿勢について」……作業療法士　西部　夏美　氏
〇校区ごとの話合い……第1回研修会で課題となった内容について
〇まとめと講話……富山県幼児教育センター　新タ　佳子　氏

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 新タ　佳子　幼児教育スーパーバイザーのお話から ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

- 普段から連絡を密にしていくことが大切である。接続担当者を決め、窓口となって連絡をとり合うなど、体制づくりを進めながら、行事の一連の流れ（計画⇒実践⇒評価⇒見直し）の中で、こまめに連絡をとり合いたいものである。
- 年度末の情報交換に加え、年度初めの４月、５月に情報交換を行うことは極めて効果的である。
- 特別な支援を必要とする子供に対しては、個別の支援のみならず、学級の子供たち全体で支え合い、よさを認め合えるような関係をつくっていくことが、力強い支援につながる。
- 子供が先生との信頼関係を深め、「学校って楽しい！」「学校は安心だ！」という気持ちを膨らませていけるように、子供に寄り添い、頑張りを認めながら自己肯定感や自信を育んでいきたい。

第２回　氷見市いじめ問題対策連絡協議会　２月16日(金)

会議では、まず氷見市の生徒指導上の諸課題に関する現状やいじめ防止対策の取組等について説明を行いました。

その後の協議では、富山県教育委員会発行の「いじめ対応ハンドブック」の研修資料（ネット上の中傷によるいじめ）を使い、グループで事例検討を行いました。グループ協議では、「それぞれの立場で考えられることや力を貸していただけること」⇒「それぞれの立場での未然防止策」という流れで話し合いました。多角的な児童生徒理解や学校全体での対応、関係児童生徒への継続的な関わりの大切さ、そのための信頼関係構築等、それぞれの立場から様々な意見が出されました。

西部教育事務所指導主事　大菱池仁子先生からは、『「いじめ事案初期対応」実践フローチャート』「いじめ対応ハンドブック」を使っての対応の仕方やＳＯＳの出し方教育、教育相談の充実等について、ポイントを絞って教えていただきました。

児童生徒をいじめの被害者にも加害者にもさせないよう、いじめ問題の未然防止に向けた関係機関の連携を日頃から培っていくことの大切さも確認することができました。

学力向上に向けた「具体的実践策と成果等」
（「全国学力・学習状況調査の活用に向けて」ワークシートより）

各校では、全国学力・学習状況調査の結果を活用し、教員の指導方法や児童生徒の学習の改善につなげるという視点から、「具体的実践策」に取り組んでいます。その一部を紹介します。

学校名	「具体的な実践策と成果等」（内容を抜粋したもの）
朝日丘小	**書く活動の充実（個）** ○書き出しや文末を指定するなど、書く経験を増やし、モデル文を提示したり、穴埋めにしたりすることで、自ら文章作りができる児童が増えた。
比美乃江小	**振り返りの充実** ○視点を提示して振り返るようにすることで、「昨日は分からなかったことが分かるようになった」等、学びを自分の言葉でまとめられるようになってきた。
宮田小	**学習課題の提示と振り返りの場の工夫** ○授業における「学習課題の提示の工夫」「振り返りの場の工夫」に、全校で方策を立てて取り組んだところ、授業を通して自他のよさや成長に気付く児童が増えてきた。
窪小	**小グループでの言語活動** ○小グループで交流し、伝え合う活動を意識的に取り入れ、文章中の重要な部分に印を付けたり、線を引いたりすることで、要旨を考える視点が明確になった。
湖南小	**考えをもつ場と意見交流する場の確保** ○既習経験を生かすことができる課題等を提示し、自分の考えをもつ場、互いに意見を交流する場を確保することで、児童は主体的に課題解決に向かうことができた。
十二町小	**児童が主体的に学習に取り組む授業づくり** ○導入で、学習意欲を高めるような教材提示を工夫したり、学んだことを振り返る場を大切にしたりすることで、児童は、意欲をもって学習に取り組むことができた。
上庄小	**問題意識を高める授業づくり** ○導入で事象の提示を工夫したり、前時との相違点等を確認しながら学習課題を提示したりすることで、児童の問題意識を高めることができた。
海峰小	**家庭学習の充実とメディアコントロール** ○参考になる自主学習ノートの掲示を手掛かりに、家庭学習に取り組む児童が増えた。児童委員会の「メディア新聞」による啓発で、メディアルールを守る児童が増えた。
灘浦小	**「学び合い」を視点とした授業づくり** ○「学び合い」の場を工夫し、話型やハンドサイン、ＩＣＴ等を活用することで、友達の意見とつなげながら話合いを進めることができた。
西の杜学園(前期)	**操作活動の充実** ○算数科でＩＣＴを活用したり、フリーハンドで図形を描いたりして考えるなど、操作活動を通して図形の学習に取り組むことで、理解を深めることができた。
南部中	**言語活動の充実** ○各教科において、学習用語を用いながら、互いの考えを話したり書いたりする言語活動を行うことで、思考・判断・表現する力が身に付いてきた。
北部中	**対話力の向上** ○話し合う活動を効果的に取り入れたことで、「授業で、対話する活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができた」と回答した生徒が 90%となった。
十三中	**書く活動と意見交流の充実** ○考えをもたせるために書く活動を多く取り入れ、考えを交流する活動を意図的に行った結果、「他人の考えを聞いて分かるようになった」という生徒が増加した。
西條中	**課題に向けて、自ら主体的に取り組む生徒の育成** ○課題意識を高めるような課題を設定することで、「課題解決に向けて、授業に意欲的に取り組んだり、学びを実感できたりした」という生徒の割合が高くなった。
西の杜学園(後期)	**情報を整理する活動** ○キーワード等に着目して情報を整理する活動を取り入れ、接続する語句に目を向け、構成を考えながら読ませることで、文章の要旨を正確に捉えることができた。

※　各校の取組の詳細は、〈小中共通フォルダ〉 → 〈教育総合センター〉 → 〈05-学力向上関係〉 → 〈R5 全国学テ活用ワークシート(成果と課題)〉に保存してありますので、参考にしてください。

「ふるさと氷見」の改訂　第三版発行
－氷見の魅力に溢れる「ふるさと氷見」の更なる活用を－

「ふるさと氷見」の改訂を行いました。グラフや表等のデータを最新の数値にするだけでなく、氷見市芸術文化館やマコモタケづくり、みなとがわ倉庫（登録有形文化財 Ｒ３指定）、ＳＤＧｓ未来都市、まんがロード、バスのデマンド運行、高岡広域圏となった氷見消防署、富山県栽培漁業センター、令和６年能登半島地震等、新しい情報をできる限り記載しました。さらに、ＱＲコードを設け、デジタル氷見や各施設のＨＰ、動画等につなぎました。子供たちが知的好奇心を高め、詳しい情報に自らアクセスする主体的な姿を期待しています。

今回の改訂に当たり、各施設や関係諸団体には多大なご協力をいただきました。おかげで、氷見の魅力に溢れた学習資料となりました。

みんなで学ぼう！「ふるさと氷見」

「ふるさと氷見を愛し、次代を担う人づくり」は、氷見市の教育基本理念として掲げられています。子供たちがふるさと氷見への愛着と誇りを抱き、積極的に地域に働きかけていくことができるよう、**「ふるさと氷見」**の更なる活用を望みます。

大きな道路沿いに見えるのは、「氷見市芸術文化館」

湊川が氷見の物流の大動脈であった歴史を伝える「みなと川倉庫」

高岡広域圏となった「氷見消防署柳田出張所」

知っていますか？「まなDX氷見」(HP)

氷見市教育委員会では、ＩＣＴの効果的な活用の一助となるよう、「まなＤＸ氷見」をアップしています。小中共通・小学校・中学校ごとに様々な活用事例を紹介していますので、まだ見たことがない先生、ＩＣＴが得意ではない先生は、ぜひ一度アクセスしてみてください。

なお、事例を見るためには「Password」が必要ですので、もしお忘れの場合は、教育総合センターまでお問い合わせください。

「まなＤＸ氷見」のＱＲコード

新 着 図 書 の 紹 介　－今年度の貸し出し冊数は 122 冊（２月現在）－

教育総合センターでの研修会後や、「センターだより」の図書紹介を見て、多くの先生方に教育図書や各発行社の教科書を借りていただきました。これからも積極的に活用してください。

＜ 新 着 図 書 ＞･･･一部紹介

図　　書　　名	著　者・発　行
質問する、問い返す　主体的に学ぶということ	名古谷　隆彦　岩波ジュニア新書
ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」	山極　寿一　　毎日新聞出版
どの子も違う　才能を伸ばす子育て　潰す子育て	中邑　賢龍　　中央公論新社
スマホ依存から脳を守る	中山　秀紀　　朝日新書
学校ってなんだ！　日本の教育はなぜ息苦しいのか	工藤　勇一、鴻上　尚史 講談社現代新書
道徳教室　いい人じゃなきゃダメですか	髙橋　秀実　　ポプラ社
個別最適な学び×協働的な学びを実現する学級経営 ３６５日のユニバーサルデザイン	赤坂　真二、上條　大志 明治図書
医者が考案したコグトレ・パズル 親子でいっしょに学ぼう！	宮口　浩治　　ＳＢクリエイティブ